

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	ポピンズナーサリースクール洗足
施設所在地	東京都目黒区洗足二丁目27番16号
法人名	株式会社ポピンズエデュケア

1. 活動のテーマ

<テーマ>

自然（自然素材・土粘土）

<テーマの設定理由>

日頃の戸外遊びの中で、子どもたちは土や砂、小石、落ち葉などの自然物に触れながら遊ぶ姿が多く見られる。その中で「つめたいね」「これかたいよ」「おみずいれてみたらどうなるかな」など素材の感触や変化に気付く言葉が聞こえ、自然素材に対する興味や関心が高まっている様子がみられた。そこで、自然素材の一つである土粘土を用い、実際に触れたりこねたりしながら素材の性質や変化を体験できる活動を設定した。自然素材に触れる中で生まれる気づきや発見を大切に、子どもたちが主体的に関わりながら探求していく経験に繋がることをねらいとしている。

2. 活動スケジュール

7月 土粘土に触れる
9月 水を加えた土の変化を体験
3月 土粘土で造形・表現遊び

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・土粘土
- ・バケツ
- ・容器
- ・粘土板
- ・粘土遊び用の小道具

室内をシートで覆った広い空間を活用し、子どもたちが自由に素材に触れたり形を作ったりできるような環境を整えた。また、水を加えることで土の状態が変化する様子を体験できるようにバケツに水を貯めてそばに置いた。子どもたちが自分の考えを試したり工夫したりできる環境構成を行った。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

土粘土に触れながら、丸める・伸ばす・つぶすなど様々な手の動きを通して形が変化する面白さを楽しむ。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

子どもたちは土粘土に触れながら、丸める・伸ばす・つぶすなど様々な手の動きを通して形が変化する面白さを楽しんでいた。はじめは、「かたいよ」「つめたいね」と感触を確かめながら触れていたが、水を加えると「やわらかくなった」「どろどろになった」「せっけんみたい」と素材の変化に気付く声が聞かれた。また、偶然できた形をみて「これ目玉焼きに似てるね」「これはピカチュウにみえるから顔つけようかな」などどんどんイメージが膨らんでいた。友だちの作品にも興味をもち、「どうやってつくったの?」と尋ねたり、「こうしたらいいんじゃない?」と提案したりする姿もあり、遊びの中で自然と関わりが広がっていった。素材に触れながら試したり工夫したりする中で、子どもたちは自然素材の感触や変化を体験し、自分なりに考えながら遊びを深めていく様子がみられた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

土粘土という自然素材に触れる活動を通して、子どもたちは素材の感触や変化に興味をもち、自分なりに試したり工夫したりする姿がみられた。また、友だちの作品を見て「どうやってつくったの?」「すごい」と声をかけ合う姿もみられ、子ども同士の関りの中で新しい発想や気づきが生まれていた。この活動を通して、子どもたちは自然素材に触れながら素材の特徴や変化に気付き、試行錯誤する体験を楽しんでいた。また、友だちとの関わりの中で自分の思いや考えを言葉で伝えたり、表現したりする姿もみられた。今後も自然素材を活用した環境を整えながら、子どもたちの興味や気づきを大切に、主体的な探求活動に繋がる経験を積み重ねていきたい。